

多言語間のコミュニケーションに貢献する高度専門職業人の育成へ

大阪外国語大学  
大学院言語社会研究科(博士前期課程)

地域言語社会専攻

「通訳翻訳学専修コース」

出願期間 2005年8月29日(月)～9月2日(金)

新設の  
背景

司法分野における通訳翻訳業務は  
今後ますます重要な役割を担う

近年、多くの外国人が日本へ入国するにつれて、民事、刑事を問わず外国人が関係する事件の比率が増加しています。被害者、被疑者、証人など立場はさまざまですが、日本語を十分に理解できない、表現できないことが多く、通訳を必要とする刑事事件は、すでに第一審における全件数の10%を超えています。また、法廷・捜査においては、中国語、タイ語、フィリピン語など、英語以外の多くの言語をこなせる通訳に対する需要が高いことも特徴です。そこで、より正確に中立・公正な日本語と外国語との間の通訳と翻訳がこなせる高度専門職業人を育成するため、本学が培ってきた世界のほぼ全域をカバーする言語の教育及び地域研究の伝統と実績をベースに、「通訳翻訳学専修コース」を新設しました。

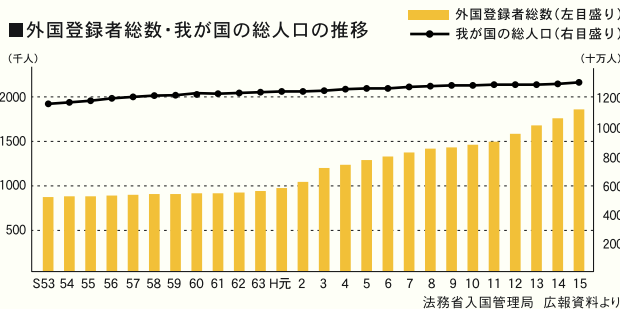
■大学院言語社会研究科

研究科	課程	専攻	コース
言語社会研究科	博士前期課程	地域言語社会専攻	東アジアコース
			東南アジア・オセアニアコース
			アジア・アフリカコース
			ロシア・東欧コース
			中・北欧コース
			南欧コース
			アメリカコース
			通訳翻訳学専修コース
			日本語・日本文化特別コース
			国際言語社会専攻
博士後期課程	言語社会専攻	日本コース	

養成する  
人材像

語学力を駆使し司法の現場で活躍する  
コミュニケーションのスペシャリスト

本専修コースでは、多様な領域での実務専門家から直接、講義や研究・実習指導を受けるという、これまでにない斬新な取り組みを教育の柱とします。より実践的な学びを通して、単なる技能者としての通訳翻訳人ではなく、学際的な教養を備え、人間的感性の豊かな、かつ職業的倫理観に支えられたコミュニケーションのスペシャリストを養成します。



教育体制

実務に即したカリキュラムで  
高度専門職業人を育成する

これまで、大学院といえば、研究者養成機関として考えられてきました。しかし、社会の多方面で活躍し得る高度な能力と豊かな学識を備えた人材への社会的要請の高まりを考慮し、本研究科では、以下の3つの職業群で活躍するためのカリキュラムを設定。実務に生かせる高度な専門知識の習得をめざします。

- ①言語社会の研究・教育、専門的な通訳・翻訳に関わる職業群
- ②国際交流、外交、国際公務に関わる職業群
- ③貿易、国際企業、開発援助などの実務に関わる職業群

通訳翻訳学専修コースでは  
広域にわたる司法分野科目を重点的に整備

通訳や翻訳が必要となる司法の現場は、裁判所における刑事事件での勾留質問手続、公判、民事における調停・裁判はもとより、警察・検察捜査や人権擁護、出入国管理、全般的な法律相談など、多岐にわたります。本専修コースは「司法領域での通訳翻訳」をカリキュラムの主要なテーマとし、法曹関係などの実務専門家による授業を積極的に取り入れます。さらに、日本では未確立でありながら必要性が認識されつつある「通訳翻訳学」の理論、技法、実習と教授法及び、通訳翻訳人の職業倫理及び行動規範などに関しても、充実したカリキュラムを提供します。



COLUMN

生活密着型の  
通訳翻訳人育成へ向けて、  
学びの領域を今後拡大

外国人が日本で暮らすうえで、生活に密着した分野での円滑なコミュニケーションは重要なテーマです。そのため本専修コースでは、診療や入院の手続きなど医療分野における通訳翻訳や、介護・子育て支援など幅広いコミュニティの場での通訳翻訳のスペシャリスト育成を目的とする研究・教育体制を順次強化していく予定です。

カリキュラム(平成17年度)

授業科目		講義題目	備考
総論科目	通訳翻訳学研究序説	通訳翻訳学原論	必修
演習科目	通訳翻訳学研究1	通訳翻訳学演習1	必修
	通訳翻訳学研究2	通訳翻訳学演習2	必修
	通訳翻訳学理論研究1	通訳翻訳の理論と方法論1	
	通訳翻訳学理論研究2	通訳翻訳の理論と方法論2	
	通訳翻訳学理論研究3	言語理解とワーキングメモリ	
研究科目	司法通訳翻訳の実務論1	法廷通訳翻訳のための基礎	
	司法通訳翻訳の実務論2	法務通訳翻訳のための基礎1	基礎1、2の連続履修を原則とする
	司法通訳翻訳の実務論3	法務通訳翻訳のための基礎2	
	司法通訳翻訳の実務論4	警察通訳翻訳のための基礎1	
	司法通訳翻訳の実務論6	弁護通訳翻訳のための基礎1	基礎2と連続履修のこと
	司法通訳翻訳の実務論7	弁護通訳翻訳のための基礎2	基礎1と連続履修のこと
	医療通訳翻訳の実務論1	医療通訳翻訳のための基礎1	
	教育通訳翻訳の実務論	教育通訳翻訳のための基礎	
	中国語通訳翻訳の実務1	ビジネス、スポーツ、文化交流、科学技術等分野での通訳実習	
	中国語通訳翻訳の実務2	司法通訳翻訳における実践的実習	
	フィリピン語通訳翻訳の実務1	司法通訳翻訳へのイントロダクション	
	フィリピン語通訳翻訳の実務2	教育通訳翻訳実習	
	タイ語通訳翻訳の実務	実務通訳翻訳実習	
	ロシア語通訳翻訳の実務(※)	口頭通訳の理論と実践:和露通訳及びロシア語文体入門	※昨年度は合格者がいないため、開講しておりません。
	スペイン語通訳翻訳の実務	実務通訳翻訳実習	

修業年限 2年

学位 修士(言語文化学)  
博士前期課程に2年以上在学して、所定の36単位以上を修得した者には修士(言語文化学)の学位を授与します。  
※本専修コースにおいては修士論文の作成を課しません。

入試概要 **[専攻・コース及び募集人員]**  
◆専攻:地域言語社会専攻 ◆コース:通訳翻訳学専修コース  
◆専攻言語※:中国語、フィリピン語、タイ語、ロシア語、スペイン語  
◆募集人員:8名

※専攻言語については下記のとおりですが、平成18年度は原則として上記の5言語を専攻言語とする志願者を募集します。ただし、実務経験を有する者等については、それ以外の専攻言語の志願者も受験できます。詳しくは、入試課へお問い合わせください。

[専攻言語]中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、デンマーク語、スウェーデン語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、日本語

**[入試日程]**

- ◆選抜方法:言語試験[志願する専攻言語の学力検査]、口述試験[個人面接]、志望理由書を含む出願書類の審査
- ◆出願期間:8/29(月)~9/2(金)[9/2 17:00本学必着] ◆試験日:平成17年10/8(土) ◆合格発表日:10/21(金)
- ◆入学手続期間:3/26(日)~27(月) ◆試験会場:本学

交通アクセス 北大阪急行線・大阪モノレール「千里中央駅」又は、阪急電鉄(千里線)「北千里駅」から、阪急バス粟生団地線「大阪外大前行」又は「間谷住宅行」で「大阪外大前」又は「間谷住宅4」下車

TOPICS

「通訳翻訳学専修コース」  
説明会開催! 場所:本学  
7月30日(土)14:00~16:30~  
教育内容や入試概要について詳しくご説明します。ぜひご参加ください。  
※予約不要

募集要項の請求及び問い合わせ先



大阪外国語大学  
入試課

〒562-8558 箕面市粟生間谷東8丁目1番1号

TEL.072(730)5069 9:30~11:30及び12:30~17:00(窓口は16:30まで)土・日曜日及び祝日を除く

http://www.osaka-gaidai.ac.jp/ nnyuushi@osaka-gaidai.ac.jp

[募集要項の請求方法]郵便番号、住所、氏名を明記し、390円分の切手を貼った返信用封筒【角形二号(33×24cm)】を同封のうえ、大学への送付用封筒の表に「通訳翻訳学専修コース募集要項請求」と朱書きし上記に請求してください。